

小腸カプセル内視鏡検査の受け方

カプセル内視鏡とは、自分で口から飲み込み、消化管を通過しながらその内部を撮影することができる、幅11mm、長さ26mmのカプセル型の内視鏡です。飲み込まれたカプセル内視鏡は消化管を通りながら小腸の写真を撮影します。撮影された画像は、腰に取付けたデータレコーダに保存されます。カプセル内視鏡は使い捨てタイプで、排便時に自然に排出されます。

まれですが、重大なリスクとして、腸閉塞、腸管穿孔、粘膜潰瘍性出血やカプセル内視鏡の滞留があります。担当医師は、消化管に狭くなったところや、詰まったところがないか、十分な検査を行います。それでもカプセル内視鏡が体内から排出されないこと（テスト用カプセルで開通性を確認している方で0.5%、確認されていない方で1%くらいといわれている）が起きる可能性があります。排便とともに排出されない場合には、下剤などを服用していただき排出を促進することを検討しますが、それでも排出されない時は、内視鏡または開腹（お腹を切る）手術によって取り除く必要がありますので、必ずカプセル内視鏡の排出の有無を医師にお伝えください。



カプセル内視鏡

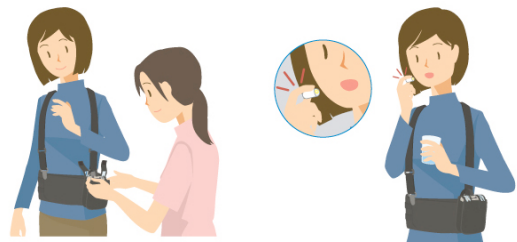


小腸カプセル内視鏡検査の前の飲食

- 検査の前日の夕食は、午後7時までに消化の良い食事を取ってください。
- 検査の前日午後9時以降は水分も食事も摂らないでください。薬を飲んでいる方だけ服薬に必要な少量の水を飲んで結構です。
- 検査当日の朝からは、お薬も一切飲まないでください。

小腸カプセル内視鏡検査の手順

- 最初にデータレコーダの装着を行います。
- カプセル内視鏡を口に入れ、少量の水で飲み込みます。カプセル内視鏡を飲み込んだら、2時間は物を食べたり飲んだりしないでください。
- カプセル内服2時間後より飲水をおとりいただき、4時間後より持参していただいた軽食（おにぎり、パン、サンドイッチなど）をおとりください。画像撮影終了後（嚥下から8時間経過し、データレコーダのLEDライトの点滅が終了しているとき）は通常の食事をお取りいただいて構いません。（担当医師から特別な指示がある場合もあります。）
- 検査中に、腹痛、吐き気、嘔吐などを催した場合は、ただちに担当医師に知らせてください。



- 超高圧送電線周辺、発電施設、レーダー基地には近寄らないでください。
- 店舗や公共施設などの出入口などに、盗難防止装置、電子商品監視 (EAS) 装置が設置されている場合は、立ち止まらず中央付近を速やかに通過してください。
- IH調理器、IH炊飯器、電子レンジなどの強力な電磁波を出す電磁家電製品を使用する場合には、その近辺に必要以上に長く留まらないでください。
- テレビやラジオの送信機、小型無線機、(トランシーバー、アマチュア無線機、パーソナル無線機)は、検査中は使用しないでください。
- 携帯電話、PHS端末、コードレス電話などはレコーダー本体に近づけないでください。
- 身体に通電したり、強い電波または磁界を発生したりする機器(低周波治療器、医療用電気治療器、高周波治療器など)は使用しないでください。
- 磁石または磁石を使用したもの(マグネットクリップ、マグネット式キーなど)を本体に近づけないでください。
- 検査中は装着された機器を外さないでください。データレコーダは精密機器のため、丁寧に扱ってください。強い衝撃を与えたりしないでください。
- 検査中は、15分ごとに、データレコーダの上部にあるLEDライトが青色に点滅することを確認してください。何らかの理由でこのLEDライトがオレンジ又は赤で点灯している場合は、LEDが青色に変わるところに移動して配布されるイベントフォーム(行動記録メモ)にその時刻を記録して検査担当者に連絡してください。
- 検査中の飲食や活動および違和感があった場合は、その感覚などについても、配布されるイベントフォーム(行動記録メモ)にその日付・時刻および内容を記録し、検査終了後、検査担当者に提出してください。
- 検査中は、汗をかくような激しい運動は避け、極端に体が曲がるような体位を長時間とらないでください。
- カプセル内視鏡を服用中、病気や何らかの事故等により意識を失った場合に備え、「私は現在カプセル内視鏡による検査中ですので、MRIのような強い電磁場の側に近づけないでください。」と記載したカードを目立つところに身につけてください。



小腸カプセル内視鏡検査、機器返却の手順

1. 画像撮影終了後機器を返却する際、その方法について検査担当者から説明があります。ご自分で機器類を外すよう指示された場合は、次の手順で行ってください。
 - (a) データレコーダをセンサベルトのコネクターから切り離します。
 - (b) データレコーダをレコーダベルトから取り外し、安全な場所に置きます。
 - (c) 取り外した機器は安全な場所に保管してください。決してSDカードを本体から抜き差ししないでください。
- 画像はデータレコーダに保存されています。データレコーダ等、取り外した機器に衝撃を与えないよう丁寧に扱ってください。

- カプセル内視鏡は、排便時に自然に排出されます。自然・衛生環境及び電波利用環境への配慮から、地方自治体や病院のルールに従って、適切に回収・廃棄する必要があります。そのため配布される回収キットを用いてカプセル内視鏡を回収し後日医院に持参ください。
- カプセル内視鏡の採取方法は、回収キットに同封されている「カプセル内視鏡採取の方法」をみて、行ってください。
- * カプセル内視鏡の採取の際、自動洗浄機能(自動フラッシュ機能)付きトイレの場合は電源を切ってください。
- * カプセル内視鏡の採取が困難なタイプ(例えば汲み取り式)のトイレは避けてください。
- 特にカプセル内視鏡を飲み込んでから10時間以内に排便の中からカプセル内視鏡を回収した場合は、必ずメタル製収納用袋に入れてください。カプセル内視鏡の電池が残った場合に放射される電波が、電波法で規定される電波強度を超えないようにするためです。



メタル製収納袋

カプセル内視鏡を飲んだ後の注意

- カプセル内視鏡が排便時に排出されたことを必ず確認してください。排出が確認できたら、必ず検査担当者に報告してください。カプセル内視鏡が体内に残っていないことを知らせるためです。
- 小腸カプセル内視鏡検査の検査中または検査後に原因不明の吐き気、腹痛、嘔吐などを催した場合は、必ず検査担当者に連絡してください。
- カプセル内視鏡が体内にある間にMRI検査を受けることは危険ですので、排出されるまで検査を受けてはいけません。
- カプセル内視鏡の排出確認方法については、検査担当者から説明がありますので、その指示に従ってください。カプセル内視鏡を飲み込んでから2週間たっても排便時に排出されたことが確認できない(0.5~1%くらいの確率です)ときは、カプセル内視鏡が体内に残っている可能性があり、下剤などを服用していただき排出を促進することを検討しますが、それでも排出されない時は、内視鏡または開腹(お腹を切る)手術によって取り除く場合があります。